

《入選》

ちがいを楽しむ心を

若葉小学校 5年

脇 わき 夕夏 ゆうか さん

わたしは、総合的な学習の時間に「ともに生きる」心のバリアフリーをめざして「の学習をしました。しょう害をもった人について学習することになったとき、わたしたちとちがって、しょう害のある人は、できないことが多いのか、かわいそうだと思うっていました。

学校にもうどう犬をつれて視覚しよう害のある方が来てくださいました。もうどう犬がそばにいてくれるからだけど、まるで目が見える人のように教室に歩いて来られました。そして、ふだんの生活について教えてくだ

さいました。わたしがびつくりしたことは、「料理をしますよ」と言われたことです。においや音でやけぐあいがわかるそうです。二つのコップに同じ量の飲み物を入れることもできるそうです。音を聞くとコップに入る量がわかるそうです。また、便利な道具も見せてくださいました。時間を知らせる音声の流れれる時計や点字のカレンダーやランプなどのいろいろなグッズ、物を置いた順番がわかるように置く場所を決めるなどの生活の工夫。わたしは、初めて聞くこと、知ることばかりでした。音を聞いたり、手でさわったり、においをかいだりする力が、わたしたちよりもすばらしいことがわかりました。

ていました。とてもおもしろそうで、わたしたちもやってみたけれど、すずの音は集中しないと聞こえないから、ボールがどこにあるのかわからず、ゲームを楽しむどころではありませんでした。かすかな音や息づかいを感じて動く、わたしたちにはむずかしいことも視覚しよう害のある人は楽しめる。スポーツを通して、わたしたちにはないすばらしい力をもっておられることを知りました。

しょう害のある人だけではなく、そもそもわたしたちはみんな、一人一人の顔がちがうように、ちよつとずつちがう個性をもった一人の間です。その人にしかわからない感じ方や見え方があるのだと思います。だから、その一人一人の感じ方や見え方を大事にしていくことが大切なのではないかと考えます。ちがいを楽しむこと、困っている人を見かけたら「何かお手つだいできることがありませんか」と声をかけると、このことをわすれずに、これからもいろいろな人との出会いを大切にしていきたいと思えます。